第42号
2018/11

PVかながわ ニュースレター

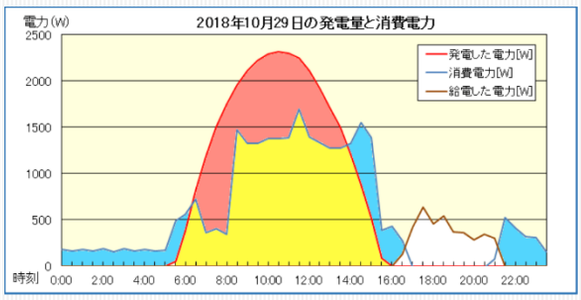
Report

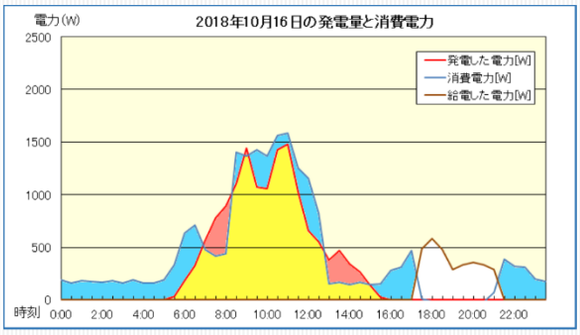
リーフ＋V2H（Vehicle to Home）を蓄電池として使ってみた②

第38号（2018/07）で、リーフを太陽電池の蓄電池として動作させた場合、発電量を越えて買電をしながら充電してしまう点が問題だった。充電を発電量内に抑えるように制御できればよいのだが、V2Hの制御装置を改造するわけにもいかないので、充電量を下げる方法を考えた。通常は200V/3kWタイプの充電ケーブルを使用しているが、100V/1.5kWタイプもあるので購入して試してみた。右のグラフは、青い塗りつぶし部分が買電分、赤色が売電分、黄色が自家消費分、白色が給電分を示し、上図は快晴時（10月29日）で、下図が曇りの時（10月16日）のグラフだ。発電の自家消費率は、200V3kW使用時の47.2%(第38号参照)に比べ、快晴の時で**63.8%**、曇りの時には**83.6%**にもなり、非常に向上している。

これはV2Hの例であるが、2019年以降FIT買取期間満了後に、発電の自家消費率を高めるために家庭用蓄電池を導入する場合も同様なことが言える。天候に応じて充電量を発電量内に抑え、自家消費率を最大化するような制御が重要だ。給電量も単純に時刻で制御するのではなく、翌日の天候を予想して給電時間を制御する必要がある。今後の蓄電池制御装置の開発を期待したい。

2019年に向けて、資源エネルギー庁サイト内に「住宅太陽光発電設備の買取期間満了に関する情報サイト（どうする？ソーラー）」が開設された。





http://www.enecho.meti.go.jp/category/saving_and_new/saiene/solar-2019after/index.html

その中で、買取期間満了後にパネルを更新してFIT再申請することは、FITの主旨に反するため不可とされている。満了後も、既存の太陽電池が稼働を続けなければ、折角導入したシステムの価値が損なわれるので、皆さんも有効に使い続けるアイディアを考えて欲しいと思う。（田辺記）

世話人から

連絡事項

フォーラム神奈川を来年の2/16(土)に向け鋭意計画中。

今後の予定

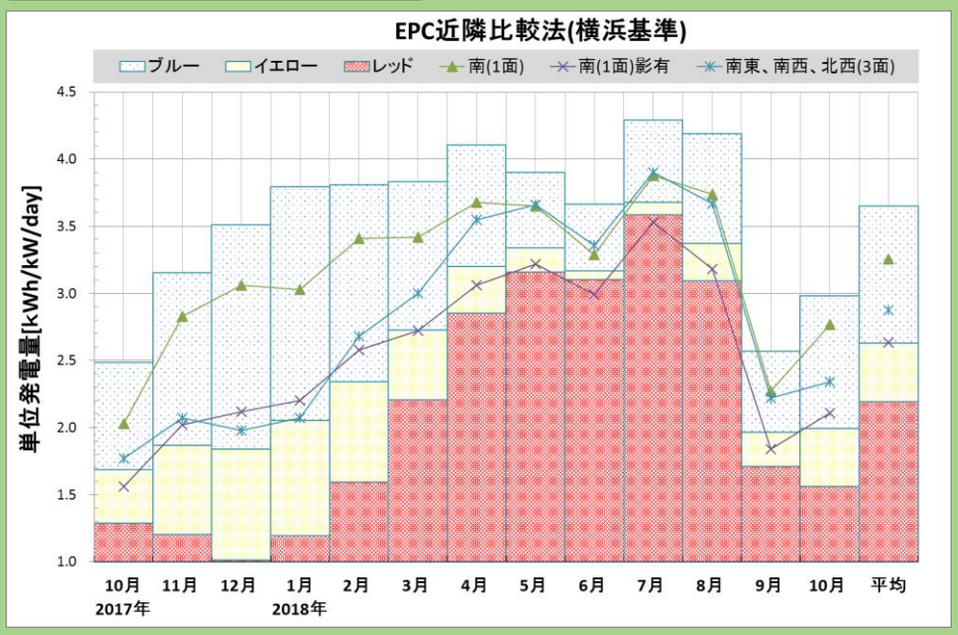
2018年11月10日（土）
「星川・まなぶん祭り2018」
会場：ほどがや市民活動センター
時間：11：00～15：00
（雨天順延　11日）

2018年11月22日（木）
「出前講座：ストップ温暖化！～私たちに何ができるか～」
場所：横浜市緑園東小学校
午前中に2クラスへ授業

2018年11月25日（日）
ワークショップ第25回
「ミニ太陽光発電所をくろう！」
主催：川崎市地球温暖化防止活動推進センター
プロジェクト ソーラーチーム
会場：「てくのかわさき」
時間：13:30～16:30

2018年12月1日（土）
「大野台おひさまフェスタ」
会場：大野台こどもセンター
時間：13：30～15：00

今月の単位発電量！



横浜では4地点で10月の平均気温の高い1位タイを記録しました。気象庁によると10月の天候は、「1 日に台風24 号が本州から北海道南東海上を進み、東日本で記録的な暴風となったほか、北日本太平洋側を中心に大雨となった。また、台風25 号は4 日から6 日にかけて日本海を北上後、温帯低気圧に変わっても強い勢力を維持し、西日本や北海道地方を中心に大雨となり、九州や東北地方を中心に記録的な暴風となった所もあった。その後は、全国的に天気は数日の周期で変化した。上旬や下旬に南から暖かい空気が流れ込んだ北日本では平均気温がかなり高く、東日本でも高かった。日照時間は、北日本日本海側と西日本太平洋側で多かった一方で、沖縄・奄美では少なく、北日本太平洋側と東日本、西日本日本海側は平年並だった。」

単位発電量とは、1kWあたり、1日あたりの平均発電量です。毎月の発電量[kWh]を設備容量[kW]と日数で割ってください。平均は直近12か月の単位発電量です。一般的に単位発電量は、ブルーの範囲になることが期待されます。北西など、やや北向きがある発電所はイエローになることもありますが、レッドが続く場合は、メーカなどに相談することをお勧めします。